

RPPCメール

リサイクルポート推進協議会

第619号（平成28年3月23日発行）

【今週号の主な内容】

■《今週の報道発表》

今週の報道発表はございません

■《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 循環資源利用促進部会より無機系循環資源説明会開催のご報告

■《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. 横浜港大黒ふ頭を再編改良へ、28年度新規に
2. 徳山下松港の国際物流ターミナル整備事業を新規
3. 名古屋港飛島ふ頭地区を再編改良事業

《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 循環資源利用促進部会より無機系循環資源説明会開催のご報告

循環資源利用促進部会では例年、無機系循環資源説明会開催しておりますが、今年度は北海道開発局にて下記の日程で開催しました。

参加者は40名で、活発な質疑応答もあり盛況のうちに終了しました。

プログラムの詳細につきましては、ホームページにてご確認ください。

記

日 時：平成28年3月15日（火）13：30～16：30

会 場：国土交通省 北海道開発局職員研修センター 1F 会議室

参加人数：40名

以 上

【事務局】

=====

《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. 横浜港大黒ふ頭を再編改良へ、28年度新規に

横浜港大黒ふ頭再編改良事業が国土交通省交通政策審議会港湾分科会事業評価部会で28年度新規事業として了承された。

自動車運搬船の増加や大型化に対応するため、大黒ふ頭のP3、P4の2バースを対象に、現状で水深7.5m延長260mとなっている棧橋式岸壁を290mに延長し、水深12mに増深する。事業期間は28年～32年度、総事業費は89億円。岸壁と航路・泊地、泊地を直轄事業で実施する。

【港湾空港タイムス】

2. 徳山下松港の国際物流ターミナル整備事業を新規

徳山下松港の国際物流ターミナル整備事業が、28年度新規事業として国の港湾分科会事業表評価部会で認められた。国際バルク戦略港湾（石炭）を担う施設整備が28年度から始まる。

徳山下松港の国際物流ターミナルは石炭需要に対応した共同輸送の進展に対応するため大型港湾施設を整備する。主な内容は、下松地区において棧橋式岸壁（水深19m）延長390mを新設するとともに、徳山地区において現行の水深14m岸壁延長280mを390m（水深14m）に、また新南陽地区でも現行の水深12m岸壁延長240mを320m（水深12m）にそれぞれ延長する。併せて、各港とも岸壁水深に伴う航路泊地の拡幅、増深を行う。事業期間は28年度～31年度、総事業費は302億円（うち港湾整備事業289億円）を予定している。

【港湾空港タイムス】

3. 名古屋港飛島ふ頭地区を再編改良事業

名古屋港飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業が28年度新規事業案件として、国土交通省港湾分科会事業評価部会で認められた。飛島ふ頭東側ターミナルで老朽化が進んでいる水深12mのR1、R2ならびにR3を対象に、コンテナの大型対応として水深15m、延長350m×2バース（延長700mの一体岸壁）に増深改良（耐震）する。総事業費は325億円（港湾整備事業も同）で、事業期間は28年度～35年度を予定している。

飛島ふ頭東側ターミナルの現行施設は、先端部（沖側）から順にW94・W93（水深15m総延長700m）、R1・R2・R3（水深12m総延長900m）、W92（水深12m）延長250m）、W91・W90（水深10m総延長370m）からなっており、東南アジア航路を中心とした外貿コンテナ貨物を取り扱っている。

28年度新規事業として認められたのは、同ターミナルの中央に位置するR1、R2ならびにR3の一部で、老朽化が進んでいるほか、カスケード現象に対応し大型化しているコンテナ船に合わせて増深改良するとともに、耐震化も行う。

【港湾空港タイムス】

#####

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金（株）

部会員：山崎 和宣 五洋建設（株）

木村 竜也 東京都

梅木 重光 （株）酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鉱（株）

新谷 聡 りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会事務局 一般財団法人みなと総合研究財団（内）

担当：本野、井手、榎並 URL：www.rppc.jp E-mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp

※会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡下さい。

開催案内等の情報をメールマガジンで配信いたします。

※メールマガジンに対する意見、要望がありましたらご連絡下さい。

※メルマガ配信先に変更がある場合は事務局までご連絡下さい。

#####